

歌 舞 伎 十 八 番

1. 『勸進帳』 (かんじんちょう)
2. 『助六』 (すけろく)
3. 『暫』 (しばらく)
4. 『外郎売』 (ういろうり) 『助六』と同じ「曾我物」の演目
5. 『矢の根』 (やのね) 同 上
6. 『毛 拔』 (けぬき) 『雷神不動北山櫻』という通し狂言の三幕目と四幕目を独立させたもの
7. 『鳴 神』 (なるかみ) 同 上
8. 『景 清』 (かげきよ) 時折上演される
9. 『関 羽』 (かんう)
10. 『不 動』 (ふどう)
11. 『象 引』 (ぞうひき)
12. 『七つ面』 (ななつめん)
13. 『解 脱』 (げだつ)
14. 『嫩』 (うわなり)
15. 『蛇 柳』 (じゃやなぎ)
16. 『鎌 髭』 (かまひげ)
17. 『不 破』 (ふ わ)
18. 『押 戻』 (おしもどし)

勸進帳・助六・暫・以外にもしばしば上演されるのが『外郎売』と『矢の根』、そして『毛拔』と『鳴神』である。前の二番は『助六』と同じ「曾我物」の演目、後の二番は『雷神不動北山櫻』という通し狂言の三幕目と四幕目を独立させたもので、登場人物に馴染みやすいことが度々再演される理由にあげられる。また『景清』も現在に伝わって時折上演されが、これ以外の演目は、今日ほとんど上演されることがない。『関羽』、『不動』、『象引』、『七つ面』、『解脱』、『嫩』、『蛇柳』、『鎌髭』、『不破』、『押戻』の十番は、いずれも七代目團十郎が歌舞伎十八番を制定した天保年間には、すでにその内容がよくわからなくなっていたようです。

助六の時は、衣装の紋は替紋の杏葉牡丹である。

十八番(おはこ)

市川宗家は、この歌舞伎十八番を桐の箱に入れて、大切に保管していた。このことから「君の十八番を歌え」とか、あなたの「十八番(おはこ)は」とか今でも使われています。「十八番」と書いて「おはこ」と読みます。

千両役者

昔、芝居小屋と年間契約をして、その給金が年間一千両以上の技量のある歌舞伎役者を千両役者と呼んでいた。今では野球選手などが年俸〇〇億円で契約、これと同じ様ですね。

二代目市川團十郎は1721年に、初めて芝居小屋と一千両以上で契約していたようです。

当時これ以上の金額で契約をしていた役者は「芳沢あやめ」がいたようです。

これから百年後の1821年に七代目市川團十郎は一千両をもって成田山に額堂を寄進しました。

この額堂は三重塔そばにありましたが、しかし残念なことに1965年(昭和40年)不審火により焼失しました。これを聞いて十一代目團十郎は大変悲しんでいたと十二代目團十郎が早稲田大学の講演会で話されたようです。当時の新聞によると額堂再建にも意欲的でしたが、願いかなわず半年後(1965年11月10日)に亡くなりました。